

令和5年度滋賀県農林水産表彰 被表彰者一覧

【功労賞】

整理番号	部門	ふりがな	年齢	住所	主な功績等	表彰式出欠
種別		氏名	(年数)	(市町)		
1	農業	くにえだ けいじ	66	守山市	昭和51年に父が営むばら園に就農後、平成15年に独立、平成26年に法人化し、現在は取締役就任している。ばらの育種を行い、60種類以上のオリジナル品種を作出して「和ばら」と総称し、自身の農園や海外の農園で生産している。高度環境制御栽培施設と集出荷加工施設を新設し、安定して出荷できる生産体制を確立するとともに、花びらから抽出した水や花びら茶の加工にも取り組んでいる。 また、指導農士として青年農業者クラブに対する指導・助言や農業大学校生の研修受け入れなど次世代の担い手育成にも尽力している。	本人出席
個人		國枝 啓司				
2	農業	たつおか あきら	67	甲賀市	4.9haの茶園を営む茶専作家であり、23歳で親元就農後、経営改善に向けて数々の新技術を地域に先駆けて導入し、定着させた。 地域の有志と「しがの茶園整備新鮮クラブ」を設立し、全国に先駆けて効率的な茶園改植技術の体系化に成功し、老朽茶園の改植と優良品種への転換を進めた。 また、28年に遡り指導農士として活動し、滋賀県指導農士会長や全国指導農士連絡協議会副会長を歴任するなど、青年農業者の育成に功績を残した。土山茶業協会の副会長、会長も歴任し、地域茶業の振興に貢献した。	本人出席
個人		立岡 啓				
3	農業	えぬびーおーほうじんあいのまちえくらぶ	18	東近江市	「東近江市愛東・湖東地域新規就農促進協議会」の構成員として就農希望者の窓口となり、栽培研修先の提案や就農後のフォローを行うことで、就農希望者や新規就農者を支援している。 農村資源を軸とした事業にも力を入れており、貸し農園や水稲、茶、果樹を栽培するプログラムは県外の参加者も多く、都市と農村の交流に貢献している。 また、愛東地域で栽培された菜種から菜種油を製造しており、その過程で出た菜種油粕を肥料にして農家へ還元したり、廃食油から石けんやバイオディーゼル燃料の加工も行っているなど、地域内資源循環サイクルを形成している。	代表者出席
団体		NPO法人愛のまちエコ倶楽部				
4	農業	やすい すけひろ	72	彦根市	稲枝地区においてリーダー的な役割を果たし、地域全体を見据えた担い手の農地集積や効率的な農地利用調整を率先して進めるなど地域の農業振興に貢献した。 水稲の作付の9割以上で環境こだわり認証を受けるなど環境に配慮した農業を長年実践するとともに、園芸品目を取り入れることで経営の多角化、安定化を図った。 また、指導農士として地域の青年農業者クラブに対して指導・助言や農業大学校生の研修受け入れを行うなど、自身の後継者を含め次世代の担い手育成にも尽力した。	本人出席
個人		安居 助廣				
5	農業	ながた かつみ	66	高島市	31歳で稲作経営として就農した後、丁寧な農地管理により地域からの信頼を得て規模を拡大し、現在の経営面積は90ha以上にまで拡大した。地域の将来を見据えた農地の利用調整や条件が良くない土地も受託し、耕作放棄地の発生防止にも貢献した。 地域の新たな特産品として「ポイセンベリー」に着目し、栽培や加工において関係者間の調整に尽力した結果、「ポイセンベリー」（愛称：「アドベリー」）は高島市を代表するブランド品となった。 また、指導農士として青年農業者の指導・育成に尽力するとともに、県域、高島地域の指導農士会長を歴任し、指導体制の充実と会員の資質向上に寄与した。	本人出席
個人		永田 勝己				
6	農業	よこた とみゆき	66	高島市	39歳で施設トマトと稲作で就農した当初から環境にやさしい農業に取り組み、化学肥料に頼らない栽培技術を確立した。滋賀県で環境こだわり農産物認証制度が発足すると、県内でもいち早く取り組み、他の生産者にも影響を与え、環境こだわり農業の広がりにも寄与した。 地域に適した耐雪性の優れたハウスの施工方法を開発し、その技術を伝授することで市内における施設栽培の普及に貢献した。 また、指導農士として地域の青年農業者クラブに対する指導・助言や農業大学校生の研修受け入れを行うなど次世代の担い手育成に尽力した。	本人出席
個人		横田 富幸				
7	水産	とどろき やすゆき	72	長浜市	平成19年から丹生川漁業協同組合理事として3年間、平成22年から代表理事組合長として13年間長きにわたり、組合運営および組合員の指導・育成に尽力した。 イベントを通じて遊漁者の増加や県民の河川漁業への理解・関心の向上を図るなど内水面漁業の振興発展に貢献した。 また、平成22年から滋賀県河川漁業協同組合連合会の理事を務め、中心的な指導者として運営強化を図るとともに、平成24年から滋賀県内水面漁場管理委員会委員を務めるなど、本県内水面漁業の発展に大きく貢献した。	本人出席
個人		轟 保幸				
8	水産	もりた まさゆき	72	近江八幡市	平成6年から19年間沖島漁業協同組合の理事として、うち平成19年から9年間は代表理事組合長として長きにわたり組合活動に尽力した。現在も漁業のかたわら漁業人材育成事業の指導者として担い手の育成にあたるなど、地域漁業の発展に寄与している。 平成19年から9年間滋賀県漁業協同組合連合会の理事を歴任し、鮎苗流通対策委員会委員として鮎苗の共同販売に尽力した。 また、平成28年から6年間琵琶湖湖海漁業調整委員会委員を務めるなど、琵琶湖漁業全般の振興に貢献した。	本人出席
個人		森田 正行				
9	農業	ほり あやお	74	野洲市	野洲市須原において、かつての農村風景を取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」を長年にわたり進め、農家だけでなく非農家、県内外の都市部住民も参加できるプロジェクトに育てた。生態系と環境にやさしい米づくりへの理解を社会に浸透させ、県内各地の「魚のゆりかご水田」の主導的な役割を担ってきた。 また、「魚のゆりかご水田米」を活用し酒造メーカーと協働した純米吟醸酒「月夜のゆりかご」の創出、自然の豊かさを青少年に伝える出前授業等、次代に引き継ぐ活動の功績も大きい。	本人出席
個人		堀 彰男				
10	林業	そうい ただよし	79	大津市	平成元年度に森林組合に入職後、組合内の経営改善に取り組み、組合組織の安定化を進めた。 平成13年度からは森林組合役員として近接組合との合併を進め、合併後の組合においても役員として地域に貢献し、現在まで滋賀南部森林組合代表理事組合長として業務を推進した。 また、平成23年度から滋賀県指導農士に委嘱され、林業を指導する立場で担い手育成に尽力した。地元である森町生産森林組合での活動のほか、外畑産生産森林組合、三ヶ山生産森林組合の設立にも尽力するなど、地域の林業活動に熱心に取り組んでおり、地域のリーダーとしての人望も厚い。	本人出席
個人		相井 忠良				
11	林業	いぶき ひろお	70	米原市	昭和52年に伊吹町森林組合に入職後、2度の組合合併を経て、現在は滋賀北部森林組合代表理事組合長として業務を推進している。 育林期において未利用であった小径間伐材の円柱加工による有効活用の推進、森林所有者への林業機械講習を通じた事故防止等の労働安全指導、次世代の人材育成による森林組合経営の安定化、施業集約化による搬出間伐の推進、県下にも先駆けしたGNSS測量の導入によるスマート林業への取組に尽力し、地域林業の振興に貢献している。	本人出席
個人		伊夫伎 博夫				

令和5年度滋賀県農林水産表彰 被表彰者一覧

【奨励賞】

整理番号	部門	ふりがな	年齢	住所	主な功績等	表彰式の出欠
種別		氏名	(年数)	(市町)		
1	農業	うの たつや	43	草津市	平成31年にイチゴ経営を開始後、地域で先行して紫外線照射ランプを導入し、病害の発生を抑え農業使用量を減らす環境に配慮した栽培を行った。就農直後は、コロナ禍により対面販売がしにくい状況であったため、自動販売機の設置を行うなど、時代に応じた販売方法に取り組んだ。 直売主体が多い大津・南部地域において、共同販売グループに参画し、会議で積極的に意見を出すなど円滑な運営に貢献している。 また、市場等を通じた新たな安定出荷体制の構築に向け、JAレーク滋賀管内みおしずくグループを立ち上げ、会長に就任した。	本人出席
	個人	宇野 達哉				
2	農業	かわむら あさと	36	甲賀市	民間企業に勤務した後、2年間県立農業大学校で学び、平成31年に親元就農後、令和5年に経営を継承した。 水稲専業農家であった経営に地域のブランド白ネギ「忍葱」を経営品目に導入した。年々面積を拡大するとともに、生産者でもトップとなる反収を達成するなど「忍葱」ブランドを牽引した。 水稲についても滋賀県食味コンクールで2年連続最優秀賞を受賞するなど高品質な米生産を実現している。 また、地元小学生の農業体験教室の受け入れも行うなど、次世代の担い手育成にも尽力している。	本人出席
	個人	川村 朝人				
3	農業	さそう かずき	38	東近江市	民間企業に勤務後、県立農業大学校でイチゴ栽培技術と農業経営を学び、平成31年にイチゴ専作経営を開始した。 環境測定システムを導入し、ハウス内の環境データにあわせた栽培管理を実践している。また、天敵や紫外線ランプを導入し、農業使用量を削減しつつ生産の安定化を図っている。 観光農園も取り組み、顧客満足度を高める取組として品種の食べ比べ、加工品の販売やハウス内に団楽スペースの確保などを行い、家族・団体が楽しめるようにしている。 また、農業高校生対象に就労体験の場を提供するなど次世代の担い手育成にも尽力している。	本人出席
	個人	佐生 和輝				
4	農業	なかがわ あき	40	長浜市	県立農業大学校でイチゴ栽培技術を学び、令和2年にイチゴと白ネギで経営を開始した。 イチゴは少量土壌培地耕栽培で、ニーズの高い4品種を導入、「みおしずく」にも取り組んでいる。作業内容等を毎日記録し、天敵や環境測定機器を活用した栽培管理で、年々着実に収量を伸ばしている。 直売用シールや箱のデザインを手がけたり、Instagramの開設など、顧客の獲得に努めている。 また、女性農業者との交流や県の事業を通じた次世代女性農業者の育成にも積極的である。	本人出席
	個人	中川 亜希				

※ 年齢は、基準日（R5/4/1）現在